

みんなのた場

サークル仲間 ⑦⑧

石巻ふれあい東グラウンドゴルフ協会

気のある仲間とプレー 心も身体も元気いっぱい

「石巻ふれあい東グラウンドゴルフ協会」(奥山仁太郎会長)は、震災後に市内のグラウンドゴルフ愛好者で結成したサークルです。平成24年3月に県グラウンドゴルフ協会に加入し、県内の各種大会にも出場しています。

メンバーは31人で、毎週火、木、土曜日の午前8時30分に市総合運動公園野球場バックスタンド裏のコースで練習しています。8ホールを4回まわり、上達を目指します。各自専用のクラブを持っていきますが、初めての人も参加できるように、いつも道具を多めに用意しています。

グラウンドゴルフの最大の魅力は個人競技であることだと奥山会長(82)は語ります。「団体競技と違い、自分のペースで進められるので、身体に無理をかけることなくあります。また、コースを



▲和気あいやいとグラウンドゴルフを楽しむメンバーの皆さん

奥山会長は「誰でも気軽に楽しめるので、『やってみてい』と思うたら、いつでも来てください」と呼び掛けています。

移動することで、1回の練習で約5〜6千歩も歩くため健康にもいいです」と太鼓判を押します。

蛇田から参加している栗野俊夫さん(80)は「気持ちと身体が噛み合ってホールインワンを決めた瞬間が何より楽しい。それも自分との勝負です」と笑顔を見せていました。

健康コラム 石巻市立病院

第4回 地域包括ケアってなに？

石巻市立病院 内科部長 長 純一

「地域包括ケア市が取り組む」、あるいは「開成に包括ケアセンターの開所」等がメディアに取り上げられますが、市民の皆さんはそれって何?と思われることでしょうか。

「地域包括ケア」とは、「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような、地域の包括的な支援・サービス提供体制」のことを指します。そのために地域ごとに医療・保健・福祉・生活支援等の仕組みが、きめ細かい連携のもとに一体的に提供されるシステムの構築が求められています。

市立病院は現在開成仮診療所として診療していますが、厚生労働省の在宅医療連携拠点に指定され、在宅医療・ケアおよび、被災者の支援体制の充実を目指し、保健や地域づくり活動等を行っています。

また仮診療所および包括ケアセンターにおいては、被災者の支援体制の強化の活動を推進する中で「地域包括ケア」に向けた取り組みを開始しています。

さらに将来市立病院が駅前に再建される際には、在宅医療にさらに積極的に取り組み、既存の医療機関や地域包括支援センター、社会福祉協議会等との緊密な連携の下、市内全域において24時間の安心した生活を支援する「地域包括ケア」体制の構築を目指しています。

☆次回3月1日号は、ジェネリック薬のお話です。

◇投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。
テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課までにお送りください。
掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを全て掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。
問 秘書広報課(内線4024) 〒986-8501(住所不要)
Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

絆



雄勝町大須 阿部傳吾(65) 和子(65) 夫妻

互いにいたわり とろろ昆布づくり

雄勝町大須の阿部傳吾夫妻は、地域の隠れた名産品、とろろ昆布の手引き加工所を営んでいます。昆布を張り付け

たロールが猛スピードで回る中、傳吾さん(65)が刃を当てると、細長い線のようなとろろ昆布が宙を舞います。それを袋詰めするのが妻の和子さん(65)の仕事です。40年以上連れ添った夫婦は互いにいたわりあいながら、地域の産業を支えています。

学校卒業後に漁船に乗り、厳寒の北の海で働いていた阿部さんは、20カイリ規制による減船や体を壊したこともあって、退職した昭和60年に念発起し、とろろ昆布づくりに挑戦しました。同業者の先輩のもとに通い、技術を習得しました。

阿部さんが常に抱えているのは、周囲への感謝の気持ちです。和子さんら家族はもちろんです。仕事に不可欠な昆布を獲ってきてくれる地域の漁業者仲間、皆大切な人たちです。

石巻地方に甚大な被害を及ぼした東日本大震災の直後も、電気が復旧した瞬間にとろろ昆布づくりの再開を決意しました。「自分が立ち上げればとろろ昆布を作れる。そうすれば地域の皆も前を向いてくれる」という思いからでした。その熱い気持ちをそばで支える和子さんは「お互いにいたわりあえるから何とか続けていられます」と笑顔で語っていました。

まちの話題

石巻地区



ケネディ駐日大使と 交流

11月25日(月) 万石浦小学校

キャロライン・ケネディ駐日米国大使が就任後初めて市を訪れ、日和山から被災状況を視察しました。その後、津波で犠牲となった外国語指導助手の米国人女性テイラー・アンダーソンさんの記念文庫がある万石浦小学校で児童たちとの交流を深めました。書道の授業にも参加し、ケネディ大使は児童たちと一緒に、自ら筆を使って「友」と書きました。

石巻地区



11月24日(日) 市役所5階議場ほか

楽しく環境フェアで体験

「環境フェア2013」が震災後初めて開催され、環境保全リーダーの会や企業等の各団体が、地球にやさしい活動について紹介しました。各ブースでは、光触媒の実験や発電機を使ったゲーム、リサイクルに関するクイズ等、多彩なテーマによる体験や展示が行われました。来場者はスタンプラリーを楽しみながら、興味深く環境への取り組みに触れていました。